

信用金庫の預貸率の動向

信金中央金庫 地域・中小企業研究所 上席調査役

とね かずゆき
刀禰 和之

(ポイント)

- 全国信用金庫の2013年度末の預貸率（預金には譲渡性預金を含む。）は、前期比0.6ポイント低下の50.3%となった。2003年度末（58.9%）から8.6ポイント低下したが、預貸金の増減が預貸率に与える寄与度をみると、預金残高の増加に伴うマイナス要因が大きく影響している。
- 地区別の預貸率は、南九州を除く10地区で前期を下回った。四国が38.5%に低下したほか、北海道、東北、北陸、関東の4地区で40%台となった。
- 預金規模別の預貸率は、「7,000億円以上」の計3階層で50%台を維持した。
- 信用金庫別の預貸率は、69金庫で前期を上回った。このうち、預金・貸出金とも増加し、さらに貸出金の増加率の方が大きかった信用金庫は62金庫あった。
- 信用金庫別の預貸率の分布をみると、①40%未満が42金庫、②40%以上50%未満が115金庫、③50%以上60%未満が82金庫、④60%以上が28金庫となった。2003年度末と比較して、70%以上の信用金庫が23金庫から2金庫に減少している。

1. 預貸率の推移

(1) 信用金庫の預貸率

全国信用金庫の2013年度末の預貸率は、前期比0.6ポイント低下の50.3%となった（図表1）。信用金庫の預貸率は2013年4月以降、月末ベースで50%を割ったが、年度末には50%台を確保できた。2003年度末と比べると、8.6ポイントの低下となる。

2013年度末の他業態の預貸率は、都市銀行が61.1%、地方銀行は70.4%、第二地方銀行

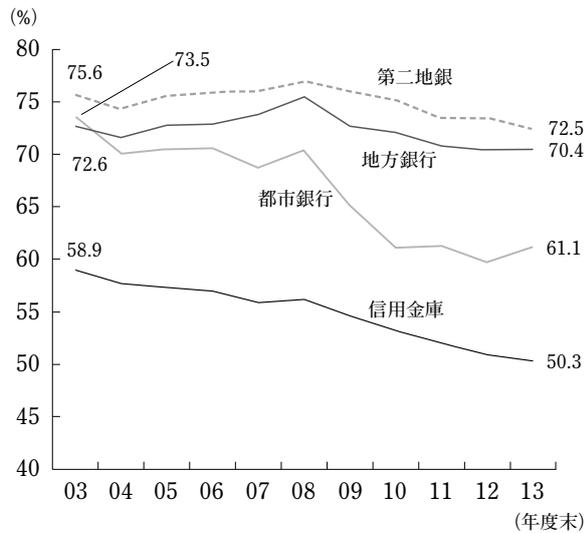
は72.5%であった。

2003年度末との比較では、都市銀行が12.4ポイント低下した一方で、地方銀行（2.2ポイント低下）、第二地方銀行（3.1ポイント低下）の低下幅は小さい。

(2) 預貸率変化の寄与度分析

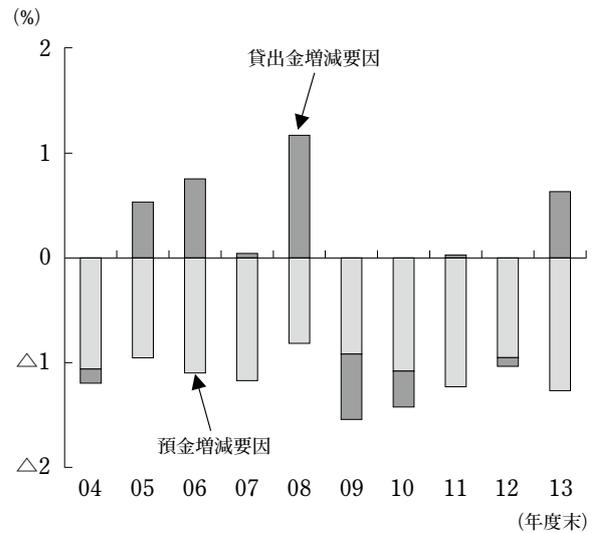
2013年度における預貸率の変化を、預貸金の寄与度で分析すると、預金が1.3%のマイナス効果だった一方で、貸出金は0.6%のプラス効果だった（図表2）。

図表1 業態別の預貸率



(備考) 他業態は日本銀行HPより作成

図表2 預貸率の寄与度分析



2003年度末から2013年度末までの寄与度で見ると、預金が10.6%のマイナス効果、貸出金は2.0%のプラス効果となった。

2. 地区別の状況

2013年度末の地区別の預貸率は、南九州が

前期並みとなったほか、10地区で前期を下回った(図表3)。地区別にみると、四国が38.5%まで低下し、北海道、東北、北陸、関東の4地区は40%台であった。

2003年度末と比べると、4地区で2桁の低下となり、なかでも四国は19.4ポイント低下

図表3 地区別の預貸率

(単位：%、%ポイント)

地区	03年度末	12年度末	13年度末	対比	
				03年度末対比	12年度末対比
北海道	53.0	45.7	44.6	△8.3	△1.0
東北	59.7	46.2	44.6	△15.1	△1.6
東京	62.5	52.2	51.8	△10.7	△0.3
関東	57.7	50.2	49.6	△8.0	△0.6
北陸	57.3	46.7	45.6	△11.7	△1.1
東海	56.6	51.7	50.7	△5.9	△0.9
近畿	59.7	52.1	51.9	△7.7	△0.1
中国	59.0	53.5	52.6	△6.4	△0.8
四国	57.9	40.1	38.5	△19.4	△1.5
九州北部	62.3	56.2	56.0	△6.3	△0.2
南九州	63.8	55.7	55.7	△8.1	0.0
合計	58.9	50.9	50.3	△8.6	△0.6

(備考) 1. 沖縄県は合計に含む。
2. 図表4ともに対比は、小数点第2位以下まで用いて計算後に第2位を切り捨てている。

図表4 預金規模別の預貸率

(単位：%、%ポイント)

預金規模	03年度末	12年度末	13年度末	対比	
				03年度末対比	12年度末対比
1兆5,000億円以上	62.4	54.4	54.1	△8.3	△0.2
1兆円以上	61.5	55.4	52.8	△8.7	△2.6
7,000億円以上	58.3	51.1	50.4	△7.9	△0.7
5,000億円以上	56.4	47.1	46.3	△10.0	△0.8
3,000億円以上	55.9	48.6	47.7	△8.1	△0.8
2,000億円以上	54.9	46.1	45.0	△9.9	△1.0
1,500億円以上	56.5	47.6	47.8	△8.7	0.2
1,000億円以上	58.8	49.6	48.6	△10.1	△0.9
1,000億円未満	57.4	48.2	48.7	△8.7	0.4
合計	58.9	50.9	50.3	△8.6	△0.6

している。

3. 預金規模別の状況

2013年度末の預金規模別の預貸率は、「7,000億円以上」の3階層が50%台となった(図表4)。「1兆5,000億円以上」が54.1%と最も高く、「2,000億円以上3,000億円未満」は45.0%にとどまった。2003年度末と比べると、2階層で2桁の低下となった。

4. 信用金庫別の状況

(1) 前期比の増減状況

2013年度末の信用金庫別の預貸率は、69金庫(構成比25.8%)が前期比上昇した(図表5)。このうち、①預金・貸出金とも増加し、貸出金の増加率の方が大きかったのは62金庫(23.2%)、②預金が減少し、貸出金

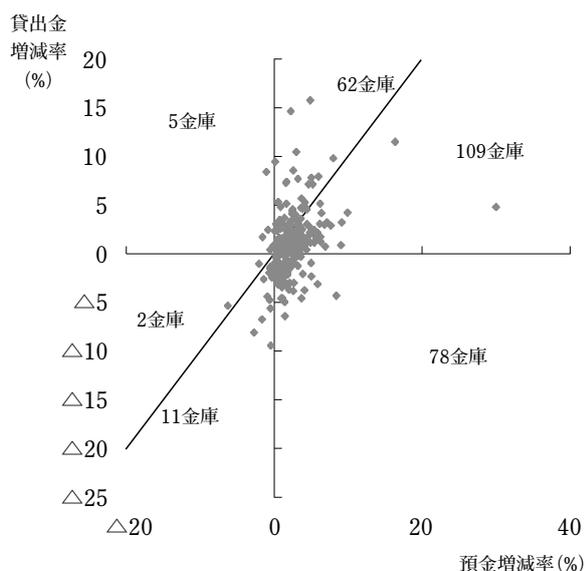
が増加したのは5金庫(1.8%)、③預金・貸出金とも減少し、預金の減少率の方が大きかったのは2金庫(0.7%)であった。

(2) 預貸率の分布

2013年度末の信用金庫別の預貸率割合は、①40%未満が15.7%(42金庫)、②40%以上50%未満が43.0%(115金庫)、③50%以上60%未満が30.7%(82金庫)、④60%以上が10.4%(28金庫)であった(図表6)。

2003年度末の分布と比べると、40%未満の割合が3.5%(11金庫)から15.7%に高まる一方で、60%以上は40.5%(124金庫)から10.4%に低下した。なかでも、70%以上は、23金庫から2金庫に、30%未満は2金庫から8金庫に大きく変化している。

図表5 信用金庫別の預金・貸出金の増減状況(12年度末→13年度末)



図表6 信用金庫別の預貸率

